

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次

	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	6
➤ 会議・イベント案内.....	7
➤ 書籍等の紹介.....	7
➤ 会員募集中.....	8

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2015」写真のご応募お待ちしております(5月31日〆切)

今年の春は異常気象なのか、季節外れの4月の降雪に雪化粧した桜が話題となりました。関東では、週末の天気が恵まれず肌寒い日が続いていたので、お花見のタイミングを逃してしまった方も多いのではないでしょうか。

JRRN 事務局では、2015年に撮影された「桜のある水辺写真」を募集中です(5/31〆切)。JRRN 非会員の方からの応募も歓迎していますので、まだ桜が咲い

ている地域の皆様、川仲間をお誘い頂き、身近な水辺や旅行などで訪れた水辺の桜の写真を、その写真に寄せる皆様の思いや桜の物語とともに、是非お送り下さい。

全国の春の水辺で切り取られた皆様の大切な一枚、お待ちしております。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

○テーマ： 「桜のある水辺風景 2015」 ※ 2015年に撮影された写真に限定させていただきます

○応募資格： どなたでもご応募いただけます (JRRN 会員・非会員)

○作品規定：

- ・応募はお一人5点まで可能です。
- ・写真サイズはハガキサイズ程度の印刷でも鮮明なレベルとし、一枚のデジタル画像サイズは3MB以内とします。
- ・個人が特定できる画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください。

○応募方法： 別紙※の「応募シート」に、題名、撮影場所、撮影年月、氏名、住所、電話、Email、写真利用時の個人情報開示条件、作品への思い等をご記入の上、写真と共に以下応募先へ送付下さい。(デジタル画像の場合は応募シートと共に電子メールにて、オリジナル写真の場合は応募シートを同封し郵送願います)

※別紙応募シート：<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/Photo2015form.doc>

○応募〆切： 2015年5月31日(日)

○応募作品の取扱いについて：

- ・桜のある水辺風景写真集やJRRN ニュースレター等でご紹介させていただきます。
- ・優秀作品をJRRN 会員により選定しJRRN ホームページ上でご紹介させていただきます。
- ・応募内容が本企画主旨に沿わないと判断した場合は、紹介を控えさせていただきます。
- ・(事前連絡の上) JRRN 刊行物やウェブサイト等で使用させていただきます。
- ・応募作品は返却致しませんのでご了承ください。

○応募先： 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
公益財団法人リバーフロント研究所内 JRRN 事務局 (Email: info@a-rr.net)

○問合せ： JRRN 事務局 担当： 後藤・和田 (E-mail: info@a-rr.net Tel: 03-6228-3862)

「第 10 回アジア河川・流域再生ネットワーク運営会議」開催報告(4/15 韓国・慶州)

JRRN が所属するアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の「第 10 回 ARRN 運営会議」を、2015 年 4 月 15 日(水)に韓国・慶州市にて第 7 回世界水フォーラム・サイドイベントとして開催しました。

■ARRN 運営会議とは？

ARRN 運営会議は、ARRN が設立された 2006 年 11 月以降、ARRN 運営会議メンバーが集まり、以下の ARRN 規約・第 7 条に基づき年 1 回開催しています。

【ARRN 規約・第 7 条「運営会議」】

1. 運営会議は、規約に基づいて組織体制、活動計画等、ARRN 運営に関して決定を行う。
2. 運営会議は、各国内ネットワーク (RRN) の代表者で構成される。
3. 運営会議には会長をおき、会長は河川再生の分野で優れた資質と見識を持つ者で、任期は 2 年とする。
4. 会長は各 RRN によって推薦され運営会議にて選出される。
5. 運営会議では、ARRN 参加者および事務局から提案される以下の項目について審議する。
 - ・ 運営会議、事務局の体制の決定
 - ・ 規約の施行、修正及び失効に関する決定
 - ・ 毎年の行動計画と行動方針の決定
 - ・ その他参加者からの提案事項

※ARRN 規約 (日本語仮約版) はこちらから

http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNcharter_Jap.pdf

※過去 9 回の ARRN 運営会議報告はこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/category/arrn-meeting>

これまで毎年秋に開催されてきた ARRN 運営会議ですが、本年は第 7 回世界水フォーラム開催に合わせて初めて 4 月に開催しました。



第 10 回 ARRN 運営会議の様子

■本年の協議内容

本年は世界水フォーラム・サイドイベントとして開催したため、ARRN 運営会議メンバー以外の方々もオブザーバー参加する公開方式会議となりました。

ARRN 運営会議の議決権を有する各国内ネットワーク RRN メンバー (日本、中国、韓国) に加え、台湾、インド、モンゴルの専門家も加わり、今後の ARRN の更なる発展に向けた方策 (特に日中韓以外の国々の参加促進)、ARRN メンバー間の情報伝達機能の強化、また本年秋にオーストラリア・ブリスベンで開催される第 18 回国際河川シンポジウムにおける ARRN 分科会「アジアの河川再生 (仮称)」の企画等について議論を深めました。

■ARRN 事務局の移管 (中国 CRRN→韓国 KRRN)

また、本年の運営会議では、ARRN 規約に基づき、3 年に渡り CRRN (中国) が務めた ARRN 事務局が KRRN (韓国) に移管されました。設立から 6 年を JRRN (日本) が、その後 3 年間を CRRN (中国) が ARRN 事務局を担い、KRRN (韓国) 主導による新たな体制で ARRN 設立から 10 年目となる活動が始動しました。



事務局移管式



なお、ARRN 運営会議を開催した 4 月 15 日(水)には、合わせて ARRN 主催「第 12 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」(ARRN 国際フォーラム)も開催しています。本フォーラムの報告は、来月の JRRN ニュースレター (2015 年 6 月号) にて詳しくご紹介させていただきます。

(JRRN 事務局・和田彰)



ゴムボート袋と手作り台車



砂州と瀬



スタート地点(桜橋下)



あの日のあの川 リレー日記 ～第4話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第4話主人公 川畑 遼介

(筑波大学院 システム情報工学研究科構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)
(□川ガール・■川系男子)
(出身地を流れる川：兵庫県猪名川，武庫川)

『僕の夏休み～桜川川下り体験記～』

いつのこと？：2014年9月

どこの川？：桜川

私は毎週金曜日、現地観測のため、車で2時間半かけて茨城県北部の里川まで出向き、朝から晩まで調査を行っている。しかし、週に1度しか観測が出来ないというのは、研究の進捗を遅らせる要因であり、弱みである。そこで、近場の川で基礎研究や観測のノウハウの蓄積、あるいはその川で1つ研究テーマを作ってしまうと、色々便利になると考えた。

そこで先生にお伺いしたところ、つくば市内で最も瀬淵がはっきりしているのは桜川ではないか、とのことなので、桜川での観測を計画することにした。

【下見・地区概要】

まずは原付で川沿いを走ることにした。桜川の出来るだけ大学から近いところで、最も瀬淵がはっきりしている場所を探そうと考えたのである。それにしても、大学を一步離れるだけで、こんなのかな風景が見られるとは思ってもみなかった。どうやら、この地区は旧桜村という農村地域であったという。つくば市は、今でこそ研究学園都市として開発が進められているが、駅前や大学周辺から一步離れると、非常にのどかな風景が広がっている。

一方、肝心の桜川というと、岸辺が林で覆われており、水辺に近づくとどこか、水面を見ることさえ一苦勞であった。川沿いの広場で途方にくれていると、小学生くらいの男の子と父親がボートで川下りをしているのではないかと。

「これだ・・・」僕は決意した。せつかくの夏休み、ゴムボートを使って川を下ってやろうと決めたのである。調べたところ、とある釣人のブログがヒットした。どうやら桜川は安全な釣りの名所であり、釣人の間では有名だそうである。こうして夏休みの1大イベント「桜川下り」の決行が決まったのである。

【事前準備】

ボートはネット通販で 2000 円のボートを購入した。学内の池でこっそりとボートの練習もした。いよいよコースを選定し、あとは出航を待つのみだ。

しかし、1つ問題が発生した。大学から川までの行き帰りである。国道 125 号沿いにバス停があるが、大形という地区より下流では、国道と川が離れてしまい、バス停がないのである。つまり、途中でリタイアする場合、疲れ切った体でボートをかっいで何 km も歩かなければならないのである。友達タクシーという手もあるが、ドロドロの身体とボートを見て、顔がひきつらない人はいないだろう。そこで考案したのが、写真のような手作り台車である。材料は全て百均で揃え、お値段は 700 円程度で抑えることが出来た。

【出航】

スタートは朝 10 時ごろであった。ポケットには飲み物、チョコレートを大量に詰め、パドルが流されて遭難しても大丈夫なようにした。スタートしていきなり瀬が見えてきた。段々流れが速くなり、緊張が走る。いよいよ、波立つ程の流れに突入した・・・ボートがくるくる回転し、流れに身をゆだねる・・・
「楽しい・・・とても楽しい・・・！」

まるで遊園地のアトラクションのようである。しかも、漕がなくてよいので楽である。これは、決行してよかったとさらに期待を膨らませる。もちろん、これはれっきとした研究の一環だ。瀬がある場所は、スマホの位置情報で記録しておく。

しかし楽しいことばかりではなかった。周りに岸に上げられる場所があれば、いちいち上陸して場所を確認しておき、次回研究室皆で来られるようにしなければならない。上陸自体はワクワクするのだが、岸辺が非常に柔らかい泥であり、膝まで埋まって抜け出せないといった苦勞もしばしばあった。また、川に木が倒れており、枝をかき分けながらボートを進めることもあった。しかしそんな苦勞も瀬を下ることで忘れる事が出来た。

1 時間半ほど下ると、瀬がだんだん少なくなってきた。地図アプリを調べると、高岡新田という地区の近くようだ。新田の近くに瀬があるはずもない。さらに進むと、いよいよ水たまりのようになっており、ボートは逆風で押し戻される。その後も頑張って漕ぎ進んだが、瀬は見当たらない。残念だが藤沢新田の近くでリタイアすることにした。約 4km の船旅であった。ボートを降りた場所から 1.5km ほど離れたところに、金田という地区があり、そこからバスで帰路についた。ここは、旧桜村の役場があった場所であり、由緒ある立派な家が建ち並んでいた。

【まとめ】

結局、観測にふさわしい瀬は桜川には見当たらなかった。しかし、今回の川下りで夏の思い出をつくり、また元々の筑波の風景を目にし、歩くことが出来た。ほとんどの筑波大生は、開発され街となった場所にしか足を運ばないだろうし、僕もこの川下りがなければ訪れることがなかったであろう場所にたくさん行くことが出来て満足である。

(次は金子貴洋さんにバトンを託します)



水辺からのメッセージ No.72

岡村幸二 (JRRN 会員)

地域に溶け込む名水： 熊本市最大の湧水地である江津湖は市民に親しまれる環境のシンボル



撮影：2015年3月（熊本県・熊本市 上江津湖・下江津湖）

◆阿蘇の伏流水の恵み

江津湖は面積 50ha もあり、日量約 40 万 m³を湛える熊本市最大の湧水地です。江戸期の代表的大名庭園の水前寺成趣園から湧き出た水も藻木堀川（写真上）を経て上江津湖、下江津湖へと注ぎます。

◆野生生物の宝庫として

江津湖周辺には約 600 種類の動植物が生息していると言われ、実際水辺にはアオサギやカワセミ、夏にはホタルが見られるなど、散歩や野鳥観察をする人たちで賑わっています。自然志向の熊本市民の格好の憩いの場、自然学習の場として親しまれています。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「入間川・越辺川水系 自然溯上アユ復活事業 入間川標識放流活動」(5/2 開催)

NPO 法人荒川流域ネットワーク (JRRN 団体会員) より、入間川・越辺川水系自然溯上アユ復活事業の一環で実施される「入間川標識放流活動」のご案内です。

- ◇実施日：2015 年 5 月 2 日 (土)
- ◇集合時間：9:00
- ◇集合場所：菅間堰下流
- ◇持ち物：長靴、あれば胴長、昼食
- ◇小雨決行：カップをご用意下さい
- ◇作業時間：約 3 時間 (人数により伸びる可能性もあります)
- ◇主催：特定非営利活動法人荒川流域ネットワーク



◆詳細は以下参照
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2027.html>

【海外からの提供情報】

■ 「RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (Bulletin)」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2015 年 4 月号) が RRC 事務局より届きました。



本号では、本年の英国河川賞の最終選考進出 4 河川の紹介、英国における河道管理に関わるハンドブック発行案内、また RRC 主催の講演会や研修行事等が掲載されています。

- ◆詳細は以下参照
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2034.html>
- ◆RRC (英国河川再生センター) HP はこちら
<http://www.therrc.co.uk/>

【海外からの提供情報】

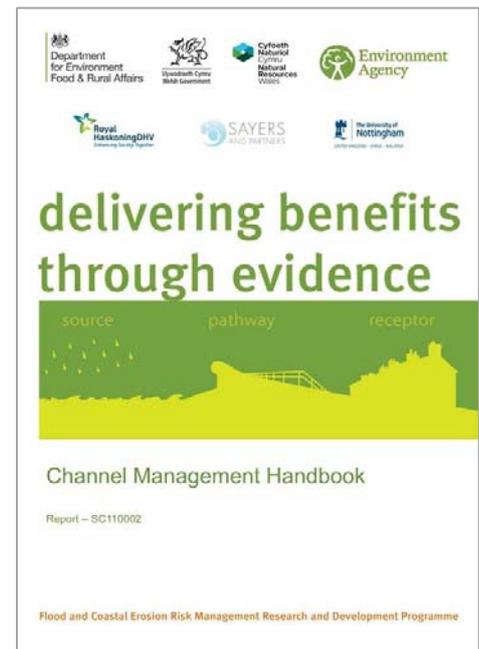
■ 英国河道管理ハンドブック 「The Channel Management Handbook」(2015 年 3 月発刊)

英国環境庁 (Environment Agency) より、河道管理のハンドブックが発行されました。

本書は主に河川管理者を対象に、約 10 年間の研究成果に基づく河道管理の考え方や管理上の意思決定方法を取りまとめた手引きです。洪水リスクの軽減策を中心としながら、合わせて河川の多様な機能も考慮した河道管理について、豊富な事例とともに紹介されています。(言語：英語)

- <目次>
- 1 Introduction (Background, Target audience etc.)
 - 2 Fundamentals and context
 - 3 Channel management decision framework
 - Technical Support Document A: Channel typologies
 - Technical Support Document B: Management Intervention Selection Matrix
 - Technical Support Document C: Management intervention options
 - Technical Support Document D: Management considerations and governing legislation
 - Technical Support Document E: Techniques for assessment
 - List of abbreviations
 - Bibliography

◆手引きのダウンロードはこちら (英語版 9MB)
<http://jp.a-rr.net/jp/resources/guideline/201.html>



(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 入間川・越辺川水系 自然溯上アユ復活事業 入間川
標識放流活動 ※前頁参照
○日時：2015年5月2日(土) 9:00～
○主催：NPO 法人荒川流域ネットワーク
○場所：入間川菅間堰下流(埼玉県)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2027.html>

■ 第6回有明海再生シンポジウムー海遍路・有明海・
森里川海をつなぐ九州講演会 ※前頁参照
○日時：2015年5月16日(土) 14:00～
○主催：NPO 法人 SPERA 森里海時代を拓く 他
○場所：柳川市図書館あめんぼセンター視聴覚室場所
(福岡県柳川市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2108.html>

■ 河川情報センター研究助成成果報告会
○日時：2015年5月25日(月) 13:30～17:00
○主催：一般財団法人 河川情報センター
○場所：一般財団法人 河川情報センター 4階 AB 会
議室(東京都千代田区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2114.html>

■ 第7回 応用生態工学会 全国フィールドシンポジウ
ム in 熊本～河川・沿岸環境の変化と土砂管理～
○日時：2015年6月12日(金)～13日(土)
○主催：応用生態工学会
○場所：熊本市国際交流会館(熊本県熊本市) 他
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2097.html>

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2015.6.15-19(Provence/フランス) River Restoration; Geomorphic and Ecological Tools
- 2015.6.28-7.3(ハーグ/オランダ) 36th IAHR World Congress
- 2015.6.30-7.2(Wageningen/オランダ) Int. Conf. on River and Stream Restoration
- 2015.8.2-7(シンガポール) 7th APHW Conference
- 2015.9.21-23(ブリスベン/オーストラリア) 18th international Riversymposium
- 2016.2.8-12(メルボルン/オーストラリア) 11th Int. Symposium on Ecohydraulics
- 2016.7.27-29(リエージュ/ベルギー) 4th IAHR Europe Congress
- 2016.8.28-31(コロンボ/スリランカ) 20th Cong. of IAHR Asia Pacific Division
- 2016.9.19-22(Stuttgart/ドイツ) 13th Int. Sympo. on River Sedimentation

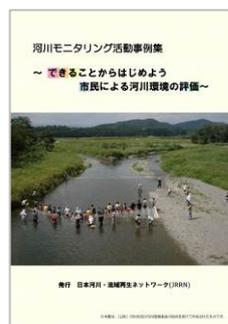
書籍等の紹介 *Publications*

■ **できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生事
例集 (2015.3 発刊)**
・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会
・デザイン：本間由佳 鶴川女子短期大学
・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
・出版年月：2015年3月



市民が河川管理者と連携して日
曜大工的に取り組む「小さな自然再
生」の事例集です。小さな自然再
生の実践を通じてその技術普及に
尽力されている専門家の方々、専
門知識の社会への橋渡しの専門家、
そして有志の若手研究者や実務者
で協働制作しました。

■ **河川モニタリング活動事例集～できることからはじめ
よう 市民による河川環境の評価～(2014.3 発刊)**
・監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)
・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境
のモニタリング活動の実態を調べ、
各地のモニタリング活動事例や市
民による河川モニタリング活動の
更なる活性化に向けたヒントを紹
介しています。

■ **上記冊子の「印刷製本版」入手方法**

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)
Email: info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

■ **上記冊子の「PDF 版」入手方法**

JRRN ホームページより両冊子ともに PDF 版をダウンロードできます。
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2015年4月30日時点の個人会員構成
(個人会員数：693名、団体会員数：56団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

Tel: 03-6228-3862 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

